

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

新海誠のアニメーションが記述する風景は、メロドラマがそこにふくまれるロマン主義的系譜に連なっているが、本来、風景の表象（風景画）はロマン主義の伝統にそって甘美な変容をとげてきた歴史をもつ。風景の表象は、その展開からして甘く美しいものである。その意味で新海誠の提示する風景はロマン主義的伝統から踏みだすものではない。したがってそれはたとえば環境資源の操作といった実利的視点から造形された風景ではない。アメリカ大陸を飛行機で横断していて、眼下に巨大な正円模様が整形式庭園のように、いくつも規則正しく並んでいるのが見えておどろかされた。全長五〇〇メートルはあろうかと思われる撒水機すいぎがコンパスで円を描くように廻りながら砂漠に撒水し、アルファルファを育てる直径一キロメートルもの巨大円形農場である。索漠たる荒野に描かれたこれら巨大な正円群は、さながらナスカの地上絵のように高空からしかその全体像をつかむことができない。しかし、このような広大な大地の新しい幾何学的農耕風景が新海誠のアニメーションに利用されることはない。新海誠が利用するものは、新奇で雑多な風景ではなく、より伝統的で、より日本的で、より日常的な風景である。

それはのびやかな丘陵地か都市の街並みか平野部であり、険阻な場所ではない。にもかかわらず新海誠はスタンダードな風景描写に異質な驚愕を呼びこむことに長けている。新海誠の風景への執着はいささか常軌を逸しているかのようにさえ感じられるほどである。

とりわけ新海誠が宮崎駿から継承した雲の風景（クラウドスケイプ）の描写は映画史上突出すべきものとなっている。新海誠がそのアニメーション画面を雲の主題とその変奏（たとえばロケットの噴射流）で埋めつくすのは、雲がそれじたい運動する風景だからである。雲は定義上、<sup>①</sup>ひとところに投錨とうびょうもしなければ係留けいりゅうされもしない。たとえば微細な運動であったとしても、たえず風に吹き動かされ生成変化してやまない運動体である。それゆえ運動イメージたる映画における風景として、クラウドスケイプほど精妙な運動体もないことになる。映画における雲の描写のおもしろさは、時々刻々と、雲がその形姿を変えるところにある。

映画が時間イメージでもあるとするならば、この目にとまりにくい雲の生成変化は映画における時間の刻印である。雲こそ文字通りプネウマ（風＝息）を吹きこまれてアニメイトされた（生命を吹きこまれた）動く被写体（生ける風景）の典型で

ある。雲はそれじたい水（蒸気）の循環、気流の動きを示している。この千変万化する雲の下で、雲とともに、新海誠の主要登場人物たちの心情はうつろいゆくのである。

（引用先 加藤幹郎氏の文章に基づく）

問 傍線部④の表現効果の説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、マークしなさい。

ア 大海に浮かぶ一艘いっそうの船をイメージさせて、大空で時々刻々とその姿を変える雲の有り様を明確にする効果

イ 碇を下ろしてひと時の安静を得る航海中の船をイメージさせて、逆説的に映画における雲の持つ意味を露見させる効果

ウ 浮かぶという点で共通する船との違いをイメージさせ、つねに生成変化して止まない雲の本質を強調する効果

エ 船が港にあっても絶えず揺れ動くことをイメージさせ、まして止まる港などない雲の変化の大きさを連想させる効果

オ 海上で波に洗われ続ける船と風にさらされる雲の差異をイメージさせて、雲の不安定さを印象付ける効果